西東京市市民協働推進センター

令和４年度第２回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和４年５月 17 日(火)午後７時 00 分～８時 00 分
■開催場所：オンライン開催（Zoom）
■出席委員：川村委員、佐藤委員、柴委員、柳委員、樋口委員、久松委員、馬渕委員、森谷委員、山本委員<以上９名>
■事 務 局：小松センター長、鈴木副センター長、小口地域福祉推進課長、中澤地域福祉推進係長

1.報　告　事　項

1．事業報告について

事務局より、４月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談について説明があった。

委　員：相談事業において、小金井市民からどういう経緯でゆめこらぼに相談がきたのか。

事務局：ご家族の方が、西東京市在住らしく、ネットでフードドライブを検索したところ西東京市のゆめこらぼが上の方に出てきたとのことだ。

委　員：検索するとゆめこらぼが上位にでてくるのか。

事務局：どのようなワードで検索したかわからないが、上位に出てきたようだ。

2．４月以降の事業について

事務局より、5-6 月以降の実施事業について説明があった。

委　員：こみゅラジの災害のゲストの小野さんは活動している方か。

事務局：西東京市に事務所があるジョージ防災研究所の代表で、市内で活動している。

委　員：他のプログラムでその方を拝見したことがある。

委員長：こみゅラジは生放送が終わった後でも聴くことができるのか。

事務局：FM 西東京のホームページで、こみゅラジと検索すると過去の回から聴くことができる。

2．審　議　事　項

1．前回の会議録について

委員長：意見が無ければ確定稿とする。

3．協　議　事　項

1．実態調査について

事務局より、令和４年度 NPO 法人・市民活動団体実態調査（案）について説明があった。

委　員：このアンケートを受けて課題が抽出されるのは良いと思う。以前の実態調査報告書の中に団体の運営上の課題はあるかという問いがあり、その回答の上位に人材不足と高齢化があるが、ゆめこらぼに求めることは何かという質問に対し、これに対応する回答が選べないので答えにくいのではないか。

事務局：今、気がついた。過去のアンケートに出ている意見に対し解決に直結するような項目を加える必要があると思った。

委　員：前回のアンケートの回答において応えられるものがあったのか。その後のフォローについて何かできたことがあれば教えて欲しい。

事務局：このアンケートの後、コロナとなってしまったが、広報・PR の活動支援という形で、団体の活動などを積極的に発信していく形で答えていった。社会が委縮している中で、社会を回そうと頑張っている市民活動団体に対して、今年度は広報・PR の活動支援をあえて言葉に出し、文字にして発信していく予定である。3 年前の調査の結果に対してなにかやっているのかという事では、広報・PR 活動だ。

委　員：活動団体はなかなか思うように動けないところもあるので、ゆめこらぼに動いてもらうと団体としてはありがたい。今後も横のつながりを進めていきたい。

委　員：問 12 で人材が不足している、構成員が高齢化しているという部分で、それぞれの団体に自分たちはこういう工夫で乗り切ったこと等を広報誌やどこかの媒体を利用して発信できないかと思う。問 13 で連携が必要と 8 割の回答があるが、行政とどのような連携をしたいのか、他団体とどのような連携をしたいのか、また教育機関とどのような連携をしたいのかを知りたい。質問数が増えるので、何を得るための質問なのかを一つひとつ振り返り、重複する質問などを精査する必要があると思う。

事務局：問 14 で回答のあった必要と感じる連携先とどういう連携がしたいのかが見えてこないので、より具体的にどういう連携がしたいのかが見えたら、ゆめこらぼとしてお手伝いできることとつながるのではないかと思った。質問が長くならないよう、経年として残すものと必要ないものをスタッフと精査して考えていく。

委　員：構成員の年齢や性別に関わる項目を設けないのか気になった。構成員の年齢によって、ゆめこらぼに求められる支援も変わってくるのではないか。機材の扱い方などは年配の方の方がより苦労されるのではないかと感じられる。ジェンダー的なものも構成員の性別により求められる支援が変わってくるのではないかと思う。

事務局：構成員や年齢層は聴く項目はあるが、年齢に関しては聞かなくても良いかと考えていた。確かに、年齢により問題も違うと思うので、簡単に回答できるような形で検討する。

委員長：確かに年齢によっても抱えている問題は違うと思う。

委　員：株式会社でも実態調査が来ると、「脱税をしていないか」、「下請けいじめをされていないか、していないか」など、負の質問が来て、悪いことしたら捕まるなどの内容となる。今回のアンケートの内容を見ていると自分が普段受けているアンケートのように、回答によっては今後の活動に関わってしまう内容ではないかという事を確認したい。あくまで、今回の実態調査はゆめこらぼがどのような支援ができるかという、ゆめこらぼにとってのアンケートと考えてよいのか。

事務局：目的は、ゆめこらぼが協働を推進するためのもので、行政と市民活動団体、市民活動団体同士協働の現状を確認するとともに、協働を推進するためにどのようなニーズがあるか、ゆめこらぼに何が出来るか実態を調査するアンケートだ。

委　員：アンケートは意図を持ってすべきなので、回答の想定をしたアンケートが重要となる。項目が多くなると回答者の集中力も途絶えていくので、質問は絞らないとならない。例えば、コロナ禍で影響ありましたかという質問は、ほぼ全員に影響があったと考えられるので、この質問は無くても良いのではないか。こういう考え方で質問を絞っていくと良いのではないか。

事務局：確かに、どんな影響がありましたか、という形に変える必要があることに気づいた。
委　員：そのようにどんな影響があったか、何で困っているかなど要点を絞った内容で質問するのが良い。
委　員：団体の活動内容と困った事の相関関係について掘り下げてデータを分析することは可能か。例えば高齢化が進んでいることで困っている団体があるが、活動内容によっては困っていない団体もあるかもしれないので、そのような相関関係を含めてデータの分析が出来るのであれば試みてはどうか。
事務局：クロス集計は大切だと思う。アンケートの集計が出た後、クロスも含めて分析の仕方を運営委員の皆様に相談させて欲しい。予算が 1000 円なので、コンサルを入れることも出来ないので、運営委員の皆様をコンサルに見立てて力を貸して欲しい。
委　員：行政は調査をしないのか。
事務局：行政は 3 年前に実態調査を 15 年ぶりに行ったので、今後行う予定はない。大きな方針を立てなくてはならないとか、条例の計画を作らなくてはならないなどの理由が無ければ調査をすることはないと思う。3 年ごとにゆめこらぼが行う調査のみとなる。
委　員：そのあたりをゆめこらぼが担っているのだから、予算を引き出すことはできないのか。
事務局：トータルで予算が決まっているので厳しい部分ではあるが、担当課と調整していく。良い結果となることをご期待いただきたい。
委員長：より良い実態調査が出来て、その結果を活用するためにも、寄せられた皆様の声を読み解く力が大事である。運営委員も協力出来たらよいと思う。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：7 月 19 日（火）19 時～20 時
会場：オンライン Zoom